

ひとが生き生きと暮らすための情報誌

# びよんど

Beyond gender

2011.3 VOL.29

父親であることを楽しむもつー

ファザーリング

特集

安藤哲也の“仕事と生活のベストバランス”

.....4・5

ヒューマンライフシンポジウム2010...2・3 茨城県女子ラグビー強化“夢”プロジェクト...7  
高校生とデートDV.....6 第3次男女共同参画基本計画が決定されました...8

## 男女共同参画都市宣言

美しい自然に恵まれ豊かな歴史を育んできた、わたしたちのまち水戸  
わたしたちは、水戸のまちをさらに輝きあふれる明日へとつなぐため、「平等・創造・平和」を基本理念とし、男女がともにわかちあい、ともにつくる社会の実現に向け、水戸市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します。

- 1 わたしたちは、ともに一人ひとりが尊重しあい、平等のもとに生き生きと暮らせるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに自らの意思で社会のあらゆる分野に参画し、次の世代へとつなぐ豊かでゆとりのあるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに地球環境を守り、世界へ向けて、友情と平和の輪を広げるまち水戸をつくります。

平成8年4月1日

水戸市

※誌名「びよんど」は1997年、公募により命名されました。 Beyond gender(性差を超えて)の思いが込められています。ジェンダーとは、社会的性別のことです。

# ヒューマンライフシンポジウム2010

## 10年のあゆみーそして未来へー「日本女性会議2001みと」から

平成22年9月25日（土）県民文化センター小ホールにおいて、特定非営利活動法人M・I・T・O21に企画・運営をお願いしてシンポジウムを開催しました。平成13年9月28日に「日本女性会議2001みと」が開催され、「水戸市男女平等参画基本条例」が施行されてから今年で10年を迎えます。そこで、ヒューマンライフシンポジウム2010は、条例制定からこれまでを振り返り、これから将来を展望する内容となりました。



内閣府男女共同参画局の岡島敦子局長による基調講演では、現在の日本の男女共同参画の取り組みについて「日本は、少しずつ進歩はしていますが、進んではいますが、諸外国がどんどん進んでいるのに比べると遅れているという状況です。」とのこと。

少子高齢化社会を迎えるにあたり「男性も女性ともに能力を発揮して、この日本を発展させる、支えていくことが必要」であり、これまで以上に女性の活躍の場を拡大させることの重要性を説きました。「女性は生活に密着した環境や福祉など、これからの世の中に必要ないろいろな視点を持っていますから、そういった女性の視点を活かすことによって、新しい需要や価値も創造されます。日本の社会の発展は女性の活躍にかかっていると思います。」

これからの日本には男女共同参画が欠かせないとしたうえで、「基

本は思いやりであり、お互いを尊重し相手の立場になる。そういうことの中で働きたい人が働ける、そして能力を発揮できるように、家庭の中も地域社会も、そして日本全体も男女共同参画を進めることによって、もつともつと良い地域、家庭、社会、国ができていくのだと思っています。」とまとめました。

### パネルディスカッション 「水戸市男女平等参画基本条例制定 からこれまで、そしてこれから」

加藤浩一水戸市長、市民団体代表として水戸女性会議会長の井川コツエさん、市内事業者の株式会社ケーズホールディングス人事部長の佐久間敏昭さん、茨城大学名誉教授の酒井はるみさん、水戸市男女平等参画推進委員を代表して伊藤充朗さんの5人のパネリストと、コーディネーターの水戸市消費生活センター長の田山知賀子さんによるパネルディスカッションでは、それぞれの方々がそれぞれの立場で、男女平等参画社会の実現に向け熱い想いを語られました。特に、日本女性会議2001みとの開催や条例の制定を振り返ると、会場には当時の熱気を思い出された参加者が多くいたようです。

「国際化が進むなか、日本のジェンダー・エンパワーメント指

数（※1）は109カ国中57位（※2）と、あまり高くない位置にあります。私たちがこの10年を発想転換していくことがいかに大事か、そして、発想転換することで、水戸市が活性化されていくと思えます。男女平等参画社会の実現に向けて、一人ひとりが鍵を握っています。水戸市民は、男女平等の構築のための宝のような存在。それぞれに手を携えて、次の10年を歩んでまいりましょう。」と総括し、盛況のうちに閉会しました。



※1 政治及び経済活動への女性の参画を示すもの  
※2 国連開発計画（UNDP）『人間開発報告書2009』より

## 男女平等参画推進月間写真コンテストの入賞作品が決まりました

水戸市では、平成20年度から男女平等参画推進月間に合わせて男女平等参画の実現をイメージした写真を募集しています。本年度の入賞者をヒューマンライフシンポジウム2010の席上で表彰し、作品の展示を行いました。



### 最優秀

「荒れ畑よ!よみがえれ!あついね! 休憩にしよう」 大高 格さん



### 優秀

「野球応援」 植田 直樹さん



### 優秀

「みんなで作ると楽しいね」 楢崎 ひろ子さん



### 佳作

「おだやかな日々」 大越 怜さん



### 佳作

「世代を超えて」 落合 美恵さん



### 佳作

「みんなで勉強、コンピュータなんてへっちゃら」 平野 紀一郎さん

## 男女平等参画社会づくり功劳賞の受賞者が決まりました

水戸市では、平成18年から「水戸市男女平等参画社会づくり功劳賞」を創設し、男女平等参画社会の形成に向けて、あらゆる分野において積極的な取り組みをしている個人や団体、事業所を表彰しています。本年度も選考委員会において受賞者を決定し、ヒューマンライフシンポジウム2010の席上で表彰式を行いました。



### 個人の部

河合 トシコさん  
小畑 玲子さん

お二人とも、女性ならではの生活感覚で地域に根ざした活動をおとして、住みよい地域づくりや女性の社会参画の途を広げました。

### 団体の部

特定非営利活動法人M・I・T・021

男女平等参画の視点を活かした企画力と行動力で啓発講座や広報活動に取り組み、女性の地位向上に寄与しました。

### 事業所の部

水戸中央青果株式会社

男女の差別なく子育てと仕事の両立できる職場環境に努め、ワーク・ライフ・バランスを積極的に推進しています。



# 特集

# 父親を楽しもう!

～仕事と生活のベストバランス～

平成22年12月4日(土)開催

「ファザリング=父親であることを楽しもう」をモットーに活動をしているNPO法人ファザリング・ジャパン代表の安藤哲也さん。ご自身も3人のお子さんのパパであるという安藤さんに、仕事も育児も楽しめるようなハッピーバランスについて講演していただきました。

安藤 哲也さん

## NPO法人ファザリング・ジャパンの活動について

NPO法人ファザリング・ジャパンは、父親育児の環境づくりと次世代育成を目標に、様々な父親支援事業を展開しています。4年前に一人でこの活動を始めましたが、現在は全国に会員が1600人位います。会員のパパたちは、家族モデルも仕事も様々です。大企業、中小企業、自営業、保育士、税理士、ミュージシャンなど色々な仕事のパパたちが揃っているんですね。家庭も半数は共働き家庭、4割が専業主婦家庭、残り1割が専業主夫家庭です。専業主夫は、奥さんが働いて旦那が家のことをやっているという場合と父子家庭がいます。今、父子家庭は死別が2割なんです。残りの8割は実は生別ですね。つまり奥さんが人生のリセットボタンを押しちゃったケース。「青天の霹靂でした!」父子家庭の4人とも僕にそう言いました。何が一番大変だったかを聞くと、「最初は家事と育児ができなかった」でも、半年もすると毎日やっているから家事なんかは上手くなります。問題は、仕事です。日本は長時間働いている男性が標準だから、それができない。2歳がいるから、1歳がいるから6時までしか働けないでしょ?出張も行けない。転動もできない。辞めるしかないんです。で、非正規

社員。年収もガーンと落ちる。で、貧困家庭になっていく。僕はそういう例をいっぱい見ました。そういう声が届いて、父子家庭にも支援が必要だと、児童扶養手当法が改正されたのです。今まで、児童扶養手当は母子家庭にだけ支給されてきました。母子家庭は140万世帯、父子家庭は20万世帯。でもいるんですよ、20万世帯は。所得などで制限はされますが、平成22年5月に法改正があつて12月1日から支給されました。それで救われた父子家庭は2万世帯と言われています。そのお父さんたちから「今年やっとサンタクロースができる。今までサンタになれなかった」という手紙を僕は貰いました。子どもは同じです。どんな家庭の子どもでも。

### ■児童扶養手当とは?

父母の離婚などで、父又は母と生計を同じくしていない子どもが育成される家庭(ひとり親家庭)の生活の安定と自立の促進に寄与し、子どもの福祉の増進を図ることを目的として、支給される手当のこと。

### イクメンに大事なこと

今、日本で注目を浴びているイクメンとは何か。ただ育児に積極的なだけでは物足りない。つまり、

休日だけベビーカーを押ししたり、デイズニールランドに連れていくのだけがパパじゃないよーということ。僕らNPO法人ファザリング・ジャパンの言っているイクメンとは次の4つです。

まず一つ目は、「**育児・家事を楽しむカッコイイ男**」手伝いとか、育児参加とかじゃなくて、自分で奥義を体得できるくらいまで楽しもうぜということです。

二つ目は、「**子どもに主体的に関わり、育て、広く多様な世界へ誘い出す**」子どもへの関わりなんです。ママが主担当、自分が副担当みたいな感じなんです。日本では、かつてはママだけだったけれども、やるようになったけれど、まだ自分はサブみたいなイメージなんですよね。そうではなくて、僕たちは、子育てはツートップフォワードでいこうとサッカーの攻撃に表現します。よく南米のチームが採用していますね。前線が2人います。でも日本はサッカーも子育てもワントップです。前線がママが置き去り状態。パスが通らないんです。点が入らない。フラストラーション(欲求不満)が溜まるサッカーをやっちゃうんですね。で、パパの出番。フリーキックのときには後ろから蹴りに来るんです。時々、年に2回くらいしかない。これが週末オンリーパパ。でもなかなかそれも入らないでしょ?だから、ワール



ドカップのドイツ・イングランド戦の4点入れて勝ったドイツみたい、前線を2人で引つ掻き回して、隙あらば点を取る。最初パパパツつて入れたでしょ、4点。ああいうのが面白いよ、育児もつて言っています。そうすると子どもも母親と同じくらいに父親に信頼と愛情を向けてくれます。ママと5日間一緒にいると、休日だけやろうとしてもなかなか上手くいきませぬ。そこで悩んでしまっただけです。そうは言ってもパパ達も帰れないんです。そういうパパ達ももっと時間の使い方、タイムマネジメントをするべきだと思います。ファザリングでもロールモデルがいて、彼は朝、仕事する。で、夕方6時から6時半に仕事から帰ります。見えない圧力を突破して。帰ったらご飯食べて、その後すぐ自分の部屋で仕事をしない。そのままお風呂に入ったり、絵本を読んだりして、3歳の子とも一緒に9時半頃に寝ちゃうんです。そうすると、早く寝るから早く起きられるんです。40歳超えると5時間で起きるでしょ？僕なんかはそうなんだけど。僕は昨日も2歳の子と10時くらいに寝ました。で、パツと目が覚めたら3時10分。もう眠くないんですよ。しょうがない、仕事するか。だから僕は朝、3時間仕事してきました。夜中の3時とかって取引先から全然電話がかかってこないし、余計なことを

言う上司もいない。家族も寝ているから、家事育児もやらなくていいんです。すごく集中できます。会社にいる3時間と全然違うんです。濃度、密度が。で、また6時半に家族が起きるでしょ。ご飯食べて、保育園に送って会社に行きます。そして、また早く帰るという循環を作った。それを皆「これはいい」と真似し始めた。それで今、すごく子育てにも関わられるようになってきました。だって、子どもの生活リズムなんです、それ。フレックスタイム制ってありますが、日本人って皆後ろにずれていくんです。遅くまで働いてしまうから、朝ゆっくりと起きて、子どもが学校行つてから起きて、またゆっくり午前に出かけるとか。独身ならいいんですよ、これでも。でも家族がいる人はなるべく前倒しにした方がいいよと僕は話しています。そうすると仕事も育児も出来るようになります。

三つ目は、「妻への愛と心づかいを忘れない」パートナーへの感謝、ねぎらいを忘れないのも大事です。子育てに家庭に大事なものは、やはり奥さんとの関係。パパとママが仲良く信頼しあいながら生活していることが大事です。子どももそれを望んでいます。なかなか帰つてこないとそれもできない。子どもと共に妻の心も離れていってしまふ。ここは、本当に重要です。

四つ目は、「地域・社会の在り方

にも意識が高い」水戸が子どもたちにとつて安心・安全な町になっていく。そういったことを常に意識しようよつていうのをやっています。僕もベビーカー押して、13年前に町を歩き始めた。「どうして道路にこんな段差があるの」今まで気が付かなかったことに、ベビーカーを押すと気が付くんです。それは車イスの人にも同じことが言えると思います。あるいは、放置自転車、歩き煙草、通学路の信号が短い。いちいち気になって、普通はそこで諦めちゃう。けれど僕は、そのままベビーカー押して、区役所や警察署へ行っていました。クレームではなく、提案ですよ。「あそこちよつと危ないと思うから、直せませんか？」つて。そうすると、担当の人がちゃんと調べてくれるんですよ。要するに声に出していけば変えられるということです。二年前の冬に、隣の小学校の一年生の男の子が、前から危ないと言われていた交差点で、左折車に巻き込まれて死亡しました。その小学校のPTA会長もすごく落ち込んでしまつて、「あの子の死を無駄にしてはいけない」と、僕を含めた近隣の4校のPTA会長の連名で「あの交差点を登下校時スクランブルにして」と嘆願書を書きました。でも、区議会などを回ったけれどなかなか変わらない。なぜなら、その交差点は主要幹線、そこを朝夕1分ずつ止めるというこ

とは、日本の経済を止めるということなんです。でも、僕は活動を続けています。だから、そういう活動を一人一人の親がやれば、変わるんです。社会は、地域は。それを良い形にして子どもたちに渡していくというのも、父親の仕事なんじゃないのつて。自分の会社が危なくならず定年までいけるというのも良いけれど、一方でそういったことを伝えていって、持続可能にしていくというのも大事なんじゃないのつて。お母さんもそうですが、大人つていうのは子どもたち良い社会を残していくということが仕事だと思えます。

#### 参加者の声

●とても元気が出た。会社を中心とした人生に疑問を感じていたが、まず身近なところから生活を変えていこうと思った。(30代・男性)

●ご自身で3人の育児に真剣に関わってきた方ならではの話が聞けて、今後の参考になりました。世の中を変えていこうという思いも伝わり、自分の生き方の参考にさせていただきます。(40代・男性)

●育児書、ネットにはない子育て論でした。大変ためになり、楽しかったです。(30代・女性)



# 未来のために、知っておこう！

## デートDV

### 心と身体を大切に

高校生に増えているトラブルを  
予防するために

思春期の心と身体は大きく変化します。この時期には、人と比べて不安になったり、心配になったりすることがあります。友達同士で話すことは不安や悩みを和らげます。しかし、本音がウソかわからない情報を伝えてしまうこともあります。

### ○青少年を取り巻く環境

皆さんの周りには、性に関する有害な情報や健康に関する不確かな情報があふれています。インターネット・雑誌・マンガの中には青少年をおおるような男女交際の内容もあり、間違った情報に振り回されてしまう例もあります。保健の教科書で正確な知識を学び「正しい情報と間違った情報を見極める力」をつけましょう。

○お互いを尊重する対等な関係づくり  
思春期は異性への興味・関心が

高まります。これは自然なことですが「自分の欲求を自分でコントロールする」ことが思春期の課題です。県内で中学生・高校生のトラブルが増えています。「相手を好きだ」という気持ちから自分勝手な行動をしたり、メールや携帯で相手を束縛することが愛情だと勘違いする例もあります。内閣府の調査でも若者のデートDVの増加が報告され、予防のための取り組みが始まっています。

### ○一人で悩まないで！相談してみよう

最後に、学校の先生は皆さんの味方です。「こんなこと相談したら怒られるかな？」と思わず、どんどん相談してみてください。子ども同士で解決できない問題は市役所・保健センター・電話相談など信頼できる大人に相談しましょう。(いはらき思春期保健協会 和田由香)

### 水戸工業高校の生徒さんの感想より

◆私は、はじめてデートDVという言葉を知りました。デートDVは相手のことを考えずに、女性などに暴力をふるってしまうことだということを知り、すごく自分勝手な行動だなと感じました。自分も、このセミナーを受けて、これからの行動に気を付けていきたいと思います。このセミナーで自分がこれからどのようにして女性と接していけばいいのかということを知ることができました。



◆「デートDV」という難しそうなテーマだったので、理解できるかどうか不安でした。・・・が、思いもよらぬクイズ方式で始まり、とても分かりやすく学びました。こんなに踏み込んで話をしてもらった機会はないので、貴重な経験ができたと思います。

◆自分は、デートDVという言葉を知ることがなく、言葉だけ聞いてもどういう事なのかという事も分からなかった。でも講演を聞いて、親しい異性からの暴力であるということが分かった。幸いなことに今までそういったことを受けたことも行ったこともなかったけれども、この先、そういった状況に遭うかもしれない、もしかしたら行ってしまおうかもしれない。その時は、今回の講演会を思い出して、相談するなり思いとどまるなどしたいと思います。

- ◆日時
- ◆場所
- ◆対象
- ◆講師

平成22年11月5日(金)  
県立水戸工業高等学校 体育館  
県立水戸工業高等学校 1年生  
(社)いはらき思春期保健協会 医師  
和田 由香さん

### 相談先は・・・



ひとりで抱えこまないで、相談してね。

	電話	受付時間
婦人相談(市子ども課)	029-232-9111	月～金曜, 10時～12時・13時～15時
子どもホットライン(18歳まで)	029-221-8181	毎日24時間 年末年始を除く
いのちの電話	029-855-1000	毎日24時間



# 水戸から世界へ 目指せ! 日本代表、オリンピック出場!! 茨城県女子ラグビー強化“夢”プロジェクト 水戸ホーリーホック女子ラグビーチーム

ラグビーといえば、激しいタックルや勇ましいスクラムなど男性のスポーツというイメージがあるかもしれませんが、ところが、水戸市内で“世界”を目指し練習に励んでいる県内唯一の女子ラグビーチームがあるのです。茨城県ラグビーフットボール協会普及育成委員長の小沼公道さんにお話をうかがいました。

2016年のリオデジャネイロ五輪に7人制女子ラグビーが正式種目として採用されたことを機に、(株)FC水戸ホーリーホックと茨城県ラグビーフットボール協会の連携により、将来の日本代表選手の選出を目的に、平成22年6月に県内初の女子ラグビーチームが誕生しました。

現在、月2回のペースで市内のグラウンドに集まり練習を行っています。メンバーは、南は守谷市から北は日立市までの県内各地の小学一年生から高校二年生までの44名。「最初は10名程度集まればと思っていたので、こんなに集まってもらえて驚いています。」と小沼さん。練習の内容は、年齢ごとにグループに分かれて、走りながらのボールのパス回しなど、グラウンドを絶えず走り回ります。「今の子どもたちは、身体が細く体力で劣っているところもありますが、技術を覚えるのが早く順応性が高いですね。」以前、練習を見学した日本のトップレベルのラグビー選手が、子どもたちの技術の高さにとても驚いたそうです。

日本では女子ラグビーの競技人口がまだ少ないので「日本代表や五輪出場など、具体的な目標が立てられることが励みになっていると思いますし、本気で狙っている子どもたちもいます。」とのこと。実際に日本代表を狙える選手が出てきたと、小沼さんは手応えを感じているようです。

コーチの長谷川馨さんは、「コーチが4人だけでしたが、チームを知って手伝ってくれる人たちが増えてきました。一から作り始めたばかりのチームですから、強くすることはもちろん、ラグビーの楽しさも伝えていきたいですね。」コーチ陣は、全員がボランティアで指導しています。初心者の低学年生に絶えず声をかけて暖かくフォローしている様子がとても印象的でした。

「(五輪に出場する選手を育成することで)青森のカーリング女子チームのように、地域を盛り上げていきたい。選手だけでなくチームも、超特急ではなく一つ一つの積み重ねで確かな実力をつけていきたいですね。」



## ●インタビュー●

### 大森文寧さん (内原中二年)

ラグビーは、みんなでボールをつないで、みんなで勝利のため頑張るところが楽しいです。

目標は、鈴木彩香選手。夢は、日本代表になりオリンピックに出場すること。

まだ体力が足りないので、練習してもっと身体をつくっていききたいです。



## ●お問い合わせ先●

茨城県ラグビーフットボール協会普及育成委員長  
小沼公道 ( ☎ 090-3531-8486 )



## 「第3次男女共同参画基本計画」が決定されました

平成22年12月第3次男女共同参画基本計画が閣議決定されました。この計画は、平成32年までを見通した長期的な政策の方向性と、平成27年度末までに実施する具体的な施策を示しています。第1部から第3部までの3部構成となっており、第1部では「基本的な方針」で基本的な考え方を示し、第2部では「施策の基本的方向と具体的施策」として、男女共同参画を推進する15の重点分野を掲げ、本計画を実効性のあるアクションプランとする為に、「成果目標」を示しています。第3部の「推進体制」では、これらの取り組みを総合的かつ計画的に推進するための体制の整備・強化を謳っています。

### 15 重点分野

★新設分野

1. 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大
  - ・政治、司法を含めたあらゆる分野で「2020年30%」に向けた取組
  - ・クオータ制など多種多様な手法によるポジティブ・アクションの検討
2. 男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革
  - ・税制、社会保障制度、家族に関する法制などの検討
  - ・調査・統計における男女別情報の充実
3. 男性、子どもにとっての男女共同参画★
  - ・男性にとっての男女共同参画の意義についての理解の促進
  - ・子どもの頃からの男女共同参画の理解の促進
4. 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保
  - ・M字カーブ問題の解消に向けた取組の推進
  - ・同一価値労働同一賃金に向けた均等・均衡待遇の推進
  - ・女性の活躍による経済社会の活性化
5. 男女の仕事と生活の調和
  - ・長時間労働の抑制、多様な働き方の普及、男性の家事・育児参画の促進、職務環境の整備
6. 活力ある農山漁村の実現に向けた男女共同参画の推進
  - ・女性の農林漁業経営や地域社会への参加の推進
  - ・加工・販売等の起業など6次産業化の取組への支援
7. 貧困など生活上の困難に直面する男女への支援★
  - ・セーフティネット機能の強化
  - ・世帯や子どもの実情に応じたきめ細やかな支援
8. 高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備★
  - ・障害者・外国人等であることに加え、女性であることで複合的に困難な状況に置かれている人々への支援
9. 女性に対するあらゆる暴力の根絶
  - ・配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等の推進
  - ・性犯罪への対策の推進
10. 生涯を通じた女性の健康支援
  - ・女性の生涯を通じた健康のための総合的な政策展開
  - ・性差に応じた健康支援
11. 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実
  - ・男女平等を推進する教育・学習の充実
  - ・多様な選択を可能にする教育・能力開発・学習機会の充実
12. 科学技術・学術分野における男女共同参画★
  - ・働きやすい環境整備に向けた取組の支援
  - ・女性研究者の採用・登用の促進
13. メディアにおける男女共同参画の推進
  - ・女性の人権を尊重した表現を推進するためメディアの取組の支援
14. 地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進★
  - ・地域における男女共同参画の基盤づくりの推進
  - ・防災における男女共同参画の推進
  - ・男女共同参画の視点に立った環境問題への取組の推進
15. 国際規範の尊重と国際社会の「平等・開発・平和」への貢献
  - ・条約等の積極的遵守、国内施策における実施・監視体制の強化、国内への周知
  - ・ジェンダー主流化による ODA（政府開発援助）の効果的実施

…そして

- \* 固定的性別役割分担意識をなくした男女平等の社会
- \* 男女の人権が尊重され、尊厳を持って個人が生きることのできる社会
- \* 男女が個性と能力を発揮することによる、多様性に富んだ活力ある社会
- \* 男女共同参画に関して国際的な評価を得られる社会

を目指します。

詳しくは、内閣府男女共同参画局のホームページをご覧ください。

<http://www.gender.go.jp/kihon-keikaku/3rd/index.html>

男女平等参画社会推進のために・・・

#### ■男女平等参画推進委員会

男女平等参画社会の推進のために設置された、市民・事業者・学識経験者から構成される委員会です。総合的な施策と重要事項を調査審議します。

#### ■男女平等参画苦情処理委員会

男女平等参画に関する苦情の申し出を、公平・中立な立場に立って調査し、解決を図っていきます。詳細は、水戸市男女平等参画課までお問い合わせください。

#### 編集後記

☆2010年は、イクメンやカジダン（家事に積極的な男性）が広く認識されました。我が家の息子達は、夕方になると洗濯物を取り込んでくれるようになりました。それがどれだけ私をほっとさせ、助かる事か。些細なことだけど子供の頃から相手を想っての行動。これが将来のカジダンに繋がるといいのですが・・・(T)

発行日／平成23年3月  
編集・発行／水戸市市長公室 男女平等参画課  
〒310-0063 水戸市五軒町1丁目6番48号  
水戸市男女平等参画センター びよんど内  
TEL 029-226-3161 FAX 029-226-3162  
ホームページ／<http://www.city.mito.lg.jp>  
印刷／関東印刷株式会社